

市指定史跡

守田 蓑洲 旧居



守田 蓑洲 旧居の概要

文化財指定種別	市指定史跡
指定年月日	平成20年8月1日
指定面積	2,410.1㎡
所在地	福岡県行橋市大字沓尾181番地
主屋建築年代	江戸時代末期(19世紀後半)
主屋の規模	桁行18.658m(9間半) 梁間9.820m(5間)
主屋の構造	木造平屋(中2階建)切妻造り 棧瓦葺 平入り
建築面積(床面積)	196.13㎡(1階部分) 延べ床面積219.27㎡ (1階196.13㎡+中2階23.14㎡)

行橋市教育委員会



守田 蓑洲 旧居への交通アクセス

- 国道10号線 国道10号線「新今川橋」南から約2.3km。車で約5分。
※新今川橋の南〔今川右岸〕⇒常盤橋交差点〔江尻川〕⇒沓尾橋〔祇川〕
⇒守田 蓑洲 旧居〔沓尾橋から祇川右岸防波堤沿いの道を東へ約200m〕
- 高速道路 東九州自動車道「行橋IC」から約7.5km。車で約20分。
※行橋IC⇒国道201号線⇒県道28号線⇒県道246号線等を経由
- 最寄の駅 JR日豊本線・平成筑豊鉄道田川線「行橋駅」から約4.5km。
行橋駅東口から車で約10分。
※県道211号線⇒県道246号線⇒今井渡橋の東〔今川右岸〕⇒常盤橋交差点〔江尻川〕⇒沓尾橋〔祇川〕⇒守田 蓑洲 旧居

■お問い合わせ■

行橋市教育委員会 文化課

〒824-8601 福岡県行橋市中央一丁目1番1号
TEL0930-25-1111 FAX0930-25-1582
http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/

守田 蓑洲 旧居

〒824-0013 福岡県行橋市大字沓尾181番地
TEL 0930-23-5559

ご利用案内

開館日

土曜日・日曜日および国民の祝日
(ただし8月13日から8月15日および12月28日から翌年1月4日までは休館)
※上記開館日以外で観覧希望の場合は事前に行橋市教育委員会文化課までご連絡下さい。

開館時間

午前10時から午後5時まで
(観覧する場合の入場は午後4時30分まで)

入館料

無料

建物の使用申込みについて

- ・守田 蓑洲 旧居は市民の皆さまに、教室や作品の発表会場として御利用いただけます。
- ・使用の申込みは利用日の7日前までに使用許可申請書を教育委員会文化課に提出して下さい。内容を確認後、使用許可書を交付します。
- ・営利を目的とする行事には使用できません。



「松山神社境内之図」(明治31年)より守田 蓑洲 旧居の部分拡大



紅葉



ヒラドツツジ



椿



百日紅

蓑洲亭の四季

守田 蓑洲 旧居



池泉庭園



石材を切り出した残石

守田蓑洲旧居整備工事中に掘り出された残石。矢穴が見られます。



主屋の梁



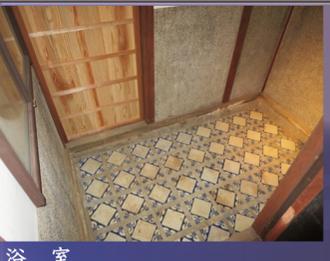
玄関



薬医門



奥座敷



浴室



冠木門 (オランダ門)

周辺の散策ポイント



たっひめ
・龍日売神社 (徒歩5分)

海の神を祀った沓尾の村社です。社殿の後背地には江戸時代の初期に行われた大坂城再建で採石された花崗岩の残石が多くあります。宝暦9年(1759年)に建てられた鳥居の礎石にもノミの痕跡を残した花崗岩が使われています。



まつやま
・松山神社 (徒歩5分)

苅田・松山城主の杉弾正弘信らの霊を祀るために、守田蓑洲によって明治時代に建立されました。境内には、大坂城の石を切り出した残石が多くあります。また、石段の中腹にある二股の道を下ると三条実美の筆による「神勅碑」があります。



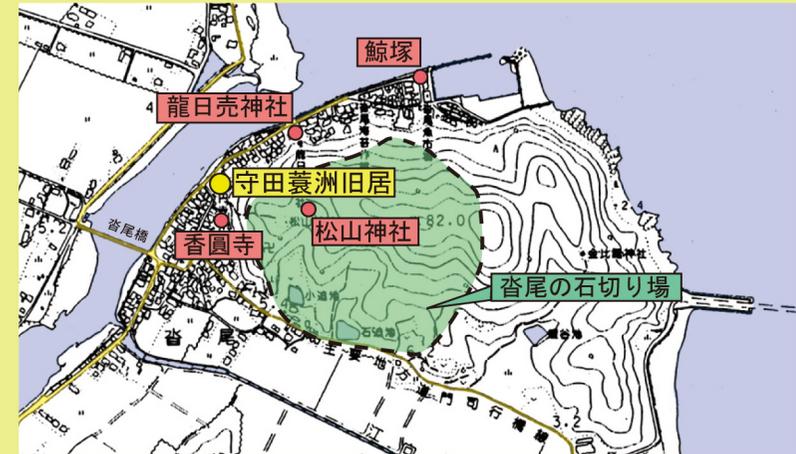
こうえん
・香園寺 (徒歩5分)

後藤又兵衛が黒田家を出奔して、密かに身を寄せていたのが守田家でした。又兵衛は娘の久子を守田家に託して山陽道に旅立ちました。その後、久子は19代守田房吉の妻となり、房吉は仏門に入り守田香園と名乗りました。沓尾の香園寺はこれに由来すると伝えられ、久子と香園夫妻の墓があります。



くじらづか
・鯨塚 (徒歩10分)

明治36年2月、海辺に長さ16.5mの鯨が現れました。死闘の末に鯨を仕留め遠方からも大勢の見物客が訪れました。その時の観覧料が470円にもなり、鯨はその後850円で売られました。この塚は鯨の霊を弔うために沓尾の漁夫により建てられました。※明治30年代の1円は今の2万円ほどの価値になります。



守田蓑洲旧居について

「守田蓑洲旧居」は今から150年ほど前の江戸時代末期に守田家第27代当主守田蓑洲の頃に建てられ「蓑洲亭」と呼ばれていました。当初は主屋の屋根は草葺で、明治時代の初めに瓦葺に改築されましたが江戸時代の大庄屋の特徴をよく表している貴重な建築です。玄関には竹製の大和天井(簀子天井)が残り、土間の天井には黒光りする太い梁がむき出しのまま生まれ、歴史を感じさせる重厚な雰囲気漂わせています。室内は広間型五間取という間取りで、広間は3つに分けられています。奥の4室は奥座敷・次座敷・中の間・納戸からなり、奥座敷は床の間や棚を設けた格式あるつくりとなっています。接客部分を重視した座敷は通りに面して築地塀を廻らせ、西側に薬医門、東側に冠木門を構えています。冠木門は明治4年に大橋洋学校教師オランダ人のファン・カステルを迎えたことからオランダ門とも呼ばれています。奥座敷からは背後にそびえる沓尾山を背景とし、自然石の石組で構成された池泉庭園があり当時の趣を伝えています。守田家の屋敷は、江戸時代から明治時代を通じて小倉藩主小笠原忠忱などの藩要人や多くの文化人が訪れた歴史的場所でもありました。

守田家の歴史

守田家は、守護大名大内氏の重臣杉氏の家臣でしたが、江戸時代の初め、今井の地から沓尾へと移り居を構え、代々庄屋や大庄屋を務めた家柄です。守田家第27代の守田蓑洲(房貫1824~1910)は江戸時代末期、文久新地の干拓事業に尽力し、平島手永大庄屋、そして明治時代には福岡県議会議員などの要職につきました。守田家には、黒田二十四騎の一人として知られた後藤又兵衛所持と伝えられる「槍」や守田蓑洲に贈られた「古稀寿賀帖」などが伝わっています。



守田蓑洲



後藤又兵衛の槍



古稀寿賀帖

